医師紹介

消化管内科

消化管内科　副院長
落合　利彰
Ochiai Toshiaki
専門分野
消化器内科・一般内科

消化管内科　主任部長
水谷　孝弘
Mizutani Takahiro
専門分野
消化器内科・消化器内視鏡

消化管内科　部長
向井　康二
Mukai Koji
専門分野
消化器内科

肝胆膵内科

肝胆膵内科　主任部長
明石　哲郎
Akashi Tetsuro
専門分野
胆・膵疾患、消化器、臨床栄養

肝胆膵内科　部長
上田　哲弘
Ueda Akihiro
専門分野
肝臓、消化器

肝胆膵内科　部長
宮﨑　将之
Miyazaki Masayuki
専門分野
肝臓、消化器

肝胆膵内科　部長
立花　雄一
Tachibana Yuichi
専門分野
胆・膵疾患、消化器

消化器外科

外科　院長
松浦　弘
Matsuura Hiroshi
専門分野
消化器外科(食道・胃・大腸)

外科　副院長
定永　倫明
Sadanaga Noriaki
専門分野
消化器外科(食道・胃・大腸)

外科　主任部長
本坊　拓也
Honbo Takuya
専門分野
消化器外科、内視鏡外科

外科　肝胆膵外科主任部長
原田　昇
Harada Noboru
専門分野
消化器外科、肝胆膵外科

外科　部長
王　歓林
O Kanrin
専門分野
肝胆膵外科

診療担当表(令和5年度)

	月	火	水	木	金
消化管内科	水谷	落合	水谷	落合	向井
肝胆膵内科	上田(肝臓)	宮﨑(肝臓) 立花(膵・胆道)	明石(膵・胆道)	上田(肝臓) 立花(膵・胆道)	明石(膵・胆道) 宮﨑(肝臓)
消化器外科	定永(消化管) 王(肝胆膵)	松浦(消化管・胸部) 本坊(消化管)	原田(肝胆膵) 藤本(消化管)	定永(消化管) 藤本(消化管)	本坊(消化管)

◎診察日は新患・再来を問いません。◎医師の休診日については、ホームページに掲載しております。受診の際はご確認ください。

患者さんのご紹介、受診に関するご相談などは「地域医療連携室」までご連絡ください。

［TEL］092-771-8151(代表)　［FAX］092-771-7604(地域医療連携室直通)

社会福祉法人 恩賜財団 済生会
福岡県済生会福岡総合病院
〒810-0001　福岡市中央区天神1丁目3番46号
TEL／092-771-8151　FAX／092-716-0185

WORLD'S BEST HOSPITALS 2023 Newsweek statista SAISEIKAI FUKUOKA GENERAL HOSPITAL
ISO 9001 BUREAU VERITAS Certification

2023.05

消化器センター

Saiseikai Fukuoka General Hospital

Gastroenterology Center

・消化管内科
・肝胆膵内科
・消化器外科

社会福祉法人 恩賜財団 済生会
福岡県済生会福岡総合病院

消化管内科 Gastroenterology

消化管内科では地域医療支援病院・救命救急センターとしての腹部急性期疾患の診療はもちろん、若年者に多い炎症性腸疾患の適切な治療と管理、地域がん診療連携拠点病院として高度な技量と経験を要する消化管表在がんの内視鏡診断と治療を主な柱として診療を行っています。

診療対象の主な病態および対象疾患

消化管がんの内視鏡診断と治療：食道、胃、大腸の表在型腫瘍は診断技術の向上と併せ低侵襲治療への需要に対応しています。

腹部内因性急性期疾患：急性腹症や上部・下部消化管出血を中心に、肝胆膵内科と共同して24時間オンコール態勢で対応しています。

炎症性腸疾患：潰瘍性大腸炎やクローン病は患者数が急速に増加しており、安全で適切な治療管理と地域連携を進めています。

当科での診療の特徴

1. 消化管表在型腫瘍への先進的診断として、拡大機能及び狭帯域光観察機能を備えた内視鏡検査を標準化しています。内視鏡治療が可能と診断した病変は粘膜下層剥離術（ESD）を中心に切除しており、安全で高い治癒切除率を維持するのみならず、病理診断科の協力のもと切除症例全例の実体顕微鏡所見と病理所見を対比し、診断精度向上に取り組んでいます。

2. 急性腹症や消化管出血においては診断と治療に正確かつ迅速な状況判断が要求されます。当科では一般内科医としての広い視野と高い専門性を両立させるよう努めています。

3. 炎症性腸疾患は主に若年期に発症します。進学や就職、結婚、出産などの転機を病気と共に乗り越えられるよう、幅広い薬剤の知識と使用経験に加え、患者さん個々の社会背景などに配慮した診療を心がけています。また、新規薬剤の治験も積極的に行っています。

消化器外科 Digestive Surgery

当院は地域がん診療連携拠点病院であるとともに、福岡地区第3次救急施設でもあります。そのため消化器外科では、胃がん、大腸がんなどの定例の悪性腫瘍の手術に加え、緊急手術にも迅速に対応できる体制を整え診療を行っています。

当科での診療の特徴

1. 消化器（食道・胃・大腸・肝胆膵）の悪性腫瘍を中心に手術や化学療法などの治療を行っています。
2. 食道外科専門医認定施設や肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設に認定されており、高難易度症例に対する高度な治療を提供しています。
3. 胃がん、大腸がんに対しては鏡視下手術・ロボット支援下手術による低侵襲手術や術前化学放射線療法を用いた機能温存手術にも積極的に取り組んでいます。
4. 院内の診療協力体制を整備し、さまざまな疾患の緊急手術、術後集中治療を要する重症例にも対応しています。
5. 心疾患、呼吸器疾患など重度の併存疾患を有する症例にも関連各科と協力し、手術に対応できる体制を構築しています。

手術支援ロボット「da Vinci Xi」を導入

2023年、当院では直腸がん、肺がんにおけるロボット支援下手術が開始されました。精密かつ正確な手術を行い、患者さんの術後の負担を軽減します。

「da Vinci」サイトはコチラ▶

肝胆膵内科 Hepatobiliary and Pancreatic Internal Medicine

2020年10月より、肝臓内科と膵・胆道内科を統合し、「肝胆膵内科」を開設しました。肝胆膵内科主任部長の明石と部長の上田を中心に、肝胆膵領域の疾患に対し幅広く対応しています。

診療対象の主な病態および対象疾患

膵　　臓：急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、膵がん、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）、その他の膵腫瘍など

胆　　道：急性胆管炎、胆嚢結石、胆管結石、胆管がん、胆嚢がん、十二指腸乳頭部がん、原発性硬化性胆管炎（PSC）、IgG4関連胆管炎など

経腸栄養：経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）、経胃瘻的空腸チューブ留置術（PEG-J）、胃瘻チューブ交換など

肝　　臓：肝がん（肝細胞がん・肝内胆管がん・転移性肝がん）、ウイルス性肝炎（A型肝炎・B型肝炎・C型肝炎）肝硬変、肝不全、胃食道静脈瘤、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、原発性硬化性胆管炎、肝膿瘍、薬剤性肝障害、アルコール性肝障害、脂肪肝、非アルコール性脂肪肝炎など

当科での診療の特徴

膵・胆道領域　急性疾患である急性胆管炎、急性胆嚢炎、急性膵炎は昼夜を問わず、内視鏡治療、経皮経肝治療を含め早期の集中治療を行っています。胆管結石も低侵襲である内視鏡治療を中心に、病態や状況に応じた治療を実施。膵がん、胆道がんも診断、治療方針決定を迅速に行い、減黄処置（内視鏡、経皮経肝）、悪性消化管狭窄に対する内視鏡的ステント治療や化学療法を含め、集学的治療を行っています。胃瘻造設、交換及び、胃瘻や経腸栄養のトラブル診療も行っています。

肝臓領域　慢性肝炎の治療、肝細胞癌の早期発見と治療に力を入れています。慢性肝炎の薬物療法は最新の治療を導入しています。肝細胞癌についてはRFA（ラジオ波焼灼療法）、TACE（肝動脈化学塞栓術）、外科手術等で根治を目指した治療行うとともに、免疫チェックポイント阻害薬や複数の分子標的薬も積極的に導入し、病態に応じた治療を行っています。

主なパス、疾患について

消化管内科

疾患名・治療名	入院日数	治療内容
大腸ポリープ切除術	2日	日帰り治療困難な比較的大きなポリープを対象とします
胃粘膜下層剥離術（ESD）	7日	主に分化型粘膜がんを対象とした内視鏡治療です
食道粘膜下層剥離術（ESD）	7日	壁深達度の浅い（粘膜固有層まで）食道表在がんに対する内視鏡治療です
大腸粘膜下層剥離術（ESD）	6～7日	ポリープ切除術では治療困難な広範な大腸表在腫瘍を対象とします

肝胆膵内科

内視鏡的逆行性胆膵管造影（ERCP）	2日～	造影検査、細胞診、内視鏡的乳頭切開術（ EST）、内視鏡的乳頭バルーン拡張術（ EPBD）、内視鏡的胆管ドレナージ術（EBD）など検査は2日、その他は病態に応じて
経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）	9日	嚥下評価を行い、胃瘻造設施行し、1週間後に腹壁固定の抜糸をします
肝細胞がん	12日以内	肝動脈塞栓術
食道静脈瘤	14日間	硬化療法

消化器外科

疾患名・治療名	入院日数
幽門側胃切除術	11日
胃全摘術	13日
結腸切除術	10日

疾患名・治療名	入院日数
直腸低位前方切除術	12日
直腸切除術	14日
肝切除術	10日

疾患名・治療名	入院日数
膵頭十二指腸切除術	16日
胆嚢切除術	4日
虫垂切除術	3日
鼠径ヘルニア根治術	2日